

会 師 医 市 牧 小 苦

師 医

島 篠

正

皮膚乾癢性湿疹

皮膚乾癸性湿疹（しん）は、皮膚表面の皮脂（油分）が欠乏し、かゆみを伴い、皮膚が乾燥した状態をいいます。放っておくと、やがて表面に細かいヒビワレを生じ、軽い皮膚炎を伴うようになってきます。

この病気は、皮脂の分泌が低下する冬の寒い時期にできることが多く、主に中高年の腰や下肢に生じ、皮膚がカサカサして

尿素軟膏で皮膚乾燥抑える

脂質がなくなり、表面にウロコ上の鱗屑（角化した皮膚）がついたりします。このため、皮膚が非常に敏感になり、非常に弱い刺激でも、それがかゆみの原因となってしまう。

治療は、かゆみの原因となる皮膚の乾燥をおさえるため、主に尿素軟膏（こう）が使われます。尿素は、水分と結合する力が非常に強いので、これを含有

する軟膏をぬると、空気中の水分を吸収して薄い膜をつくり、皮膚の力サカサを緩和してくれます。

また、かゆみの強いときは、抗ヒスタミン剤の内服を併用したり、湿疹の炎症症状の強いときは副じん皮質ホルモンを含有した軟膏も用います。

次に家庭での一般的な注意事項をいくつかあげてみますと、

まず第一に入浴があげられます。老人の脂肪の少ない皮膚は、入浴により更に皮膚の表面の脂肪分が流れ落ちてしまいます。熱すぎる風呂、長い風呂はさげてください。また、石けんの使いすぎ、洗いすぎ、それにナイロン性あかこすり、タワシ、ヘチマ、軽石などの使用もさげましょう。

暖房による室内の乾燥もよく

ありません。時には加湿器を使用しましょう。電気毛布も加温のため皮膚の乾燥化が進み、かゆみが増しますので、なるべく使用をさげましょう。

衣類では、皮膚にピッタリ密着する下着はさげ、柔らかな木綿地のものにしてください。その他の悪化因子は、ほかの湿疹、皮膚炎と同じですが、精神的な不安、イライラもかゆみに影響しますので、安らかな気持ちで生活を送ることも必要でしょう。

